

第5回板橋区観光振興ビジョン策定検討委員会 議事要旨

- 日 時 令和8年3月4日(水) 14時00分～15時20分
- 場 所 板橋区役所南館2階 人材育成センター
- 出席者 安島委員長、中野副委員長、武部委員、宮口委員、渡辺委員、高田委員
高橋委員、別府委員、平岩委員、家田委員
- 傍聴者 なし
- 配布資料 資料1 板橋区観光振興ビジョン2035原案(本編)
資料2 板橋区観光振興ビジョン2035原案(資料編)
委員名簿

■次 第

1. 開会
2. 議題
板橋区観光振興ビジョン2035の原案について
3. 閉会

主な議論内容

1. 板橋区観光振興ビジョン2035原案について説明(事務局)

(1) 本編

- ・素案で本編に掲載していた「ビジョン策定の背景」は、本編の読みやすさを考慮し資料編に移行した。
- ・区の基本計画に基づく「創造都市」の考え方を基本理念に反映した。
- ・構成を整理し、基本理念とそれを実現する戦略という関係に再構成した。
- ・素案の4つの目標を再整理し、5つの戦略として提示した。
- ・各戦略は「2035年の目指す姿」「施策の方向性」「代表的施策」で構成し、これまでの委員会での意見を踏まえて整理した。

(2) 資料編

- ・全56事業のうち85.7%が完了、未実施事業はゼロで、前回より完了事業が増加し実施率が向上した。
- ・観光を取り巻く環境の変化については本編との整合を図り内容を更新した。
- ・計画中の施設については、板橋区史跡公園、かわまちプロジェクト事業における進捗状況に合わせて記載を更新した。

2. 各委員からの意見

(1) 構成について

- ・素案から大きくテイストが変わり、言語化されて伝わりやすくなった。
「創造都市」の概念が入った意義は大きい。(安島委員長)
- ・戦略以下の構成が整理され明確で分かりやすい。10年続くビジョンとして、メッセージが統一されている。(宮口委員)

(2) 区民への周知・浸透と情報発信について

- ・本編の12ページまでは良く纏まっているので、庁内だけでなく広く活用してほしい。(中野副委員長)
- ・既存ツールである「観光いたばしガイドブック」や「板橋マニア」は活用・認知が不足していると思われる。本ビジョンの原案は素晴らしいので、いかに区民に周知・発信していくかが重要。(高田委員)

(3) 地域資源の保存と活用について

- ・公共施設だけでなく、民間の歴史的建築物も取り壊される前に文化財登録やカフェ化などで支援を行い、保存・活用していくべき。(渡辺委員)

(4) インバウンド、国際交流（多文化共生）について

- ・インバウンド受入れは先ず区民が地域の魅力を理解し受け入れることが重要であり、その上で外部へ展開するという段階的な取り組みが必要である。(家田委員)
- ・観光客誘致だけでなく、区内に住む外国人に魅力を知ってもらう「まちづくり」へシフトしている過渡期であると感じる。(平岩委員)
- ・交流の形は様々であり、観光と居住の二つの区分ではなく、文化など多様な交流を生む都市を目指すべき。(武部委員)
- ・外国人コミュニティ主体のイベントが新しい地域活性化の形になる可能性を感じている。(高橋委員)

(5) 今後の運用とアクションについて

- ・施策の「主語（区民、日本人客、外国人等）」を明確にしたマトリックスを作成すべき。主語が曖昧だとKPIもぶれる。定点調査の結果をKPIとして活用し、PDCA

を回してほしい。(宮口委員)

- ・本ビジョンを10年間固定せず、社会変化に合わせて定期的に見直し、価値を磨き続ける体制構築が必要。(安島委員長)

(6) 資料編について

- ・区内主要観光施設への来訪者数は平均値でなく祭事開催日など実態に即した分析が必要。商店街と観光施設では来訪目的も異なるため単純比較はすべきでない。

(別府委員)

- ・アンケート結果からも「生活の魅力」が先にあり、結果として観光が生まれる。生活利便性が板橋の強みであると読み取れる。(渡辺委員)

3. 今後のスケジュール

- ・令和8年3月26日： 庁内意思決定機関（庁議）への提出
- ・令和8年4月15日： 区議会への報告
- ・令和8年5月： ビジョンの発行（予定）